26

『王叔和脈訣』の版本について

水溜　亮一
はな鍼灸治療院／日本鍼灸研究会

『王叔和脈訣』は，五代（一説に六朝）の高陽生が著したとされる，主に五言もしくは七言の歌訣で構成された脈書である．宋から明代にかけて種々の注解書が著され，その幾種かは，清代まで繰り返し重刊されていることから，後世の脈学に多大な影響を及ぼしていることが知れる．

筆者は，昨年の本学会にて，当書の基礎的な書誌と現伝する無注本並びに注解書を調査し発表した．今回は，現伝する版本の相互関係を明らかにすべく，無注本と主要な注解書の正文（診候入式歌から小児外證一十五候歌まで）の構成と字句の異同（部首の省略や異体字は除く）を調査検討した．使用した版本は，以下の通り．①北宋・劉元賓『通真子補註王叔和脈訣』三巻／国立公文書館内閣文庫所蔵・明成化五年刊本（『日本現存中国稀覯古医籍叢書』所収，人民衛生出版社，1999年）．②金・張元素『潔古老人注王叔和脈訣』十巻／宮内庁書陵部所蔵・元至元十九年序刊本（『日本現存中国稀覯古医籍叢書』所収）．③元・戴起宗『脈訣刊誤』／内閣文庫所蔵・寛永九年刊本（『和刻漢籍医書集成』第六輯所收，エンタプライズ株式会社，1989年）．④元・撰者未詳『纂図方論脈訣集成』四巻／宮内庁書陵部所蔵・朝鮮活字本（558函10号）．⑤明・熊宗立『勿聴子俗解脈訣大全』六巻／内閣文庫所蔵・明正徳四年刊本（『日本現存中国稀覯古医籍叢書』所収）．⑥明・張世賢『図註脈訣弁真』／上海図書館所蔵・清善成堂刻本（『続修四庫全書』第998冊所収）．⑦無注本『王叔和脈訣』／内閣文庫所蔵・明刊『医書八種』第二冊所収（34函8号）．

①と②には，2つの大きな違いが認められる．一つは篇の構成順序の違いである．具体的には，五蔵の診察法を述べた篇の後に，①では七表八裏九道が論じられ，②では左右寸関尺の診断法が述べられている．もう一つは，①に見えない句が②に認められることである．②の「腎蔵歌」篇の「味鹹帰霍豆精志自相随」の2句10字，同じく②の「察色観病生死候歌」篇にある「面赤目青中悪傷　栄衛不通立須亡」及び「面無精光如土色　不能食時四日亡」の4句28字は①には見られない．また字句の異同が甚だしいことから，異なる系統のテキストを底本としていることは確実である．

③は内容構成が②と同じで，前述の①に見えない句が認められることから，②の系統の版本と考えられる．但し①との字句の異同数は，②とあまり変わらないため，①の系統にある版本も重視し校訂していることが分かる．また①②ともに一致しない字句が多数あり，今は失われた李駉注本あるいは別系統の版本の影響が伺われる．

④も③と同様の理由から，②の系統の版本と言えるが，①と一致する字句が数多く見られ，③以上に①系統のテキストを重視していると思われる．また③と同じ根拠により，佚書となった別系統のテキストの影響が察せられる．

⑤と⑥は，七表八裏九道の位置は①と同じであるが，左右寸関尺の診断を論じた部分が違っている．しかし②に見られ①に無い句が認められないことと，①との字句の異同が，②との異同より少ないことから，①の系統の版本であると言える．

⑦は，構成順序が②と同じであり，①には無いが②に見える句が認められることと，字句の異同が他の版本に比べ格段に少ないことから，②の版本の系統にあると言える．さらに数は僅かであるが，①②⑤⑥のいずれか一本とのみ一致する字句が見られる．よって⑦は②を底本とし，諸本との校勘を経た校訂本であると考えられる．

『王叔和脈訣』の版本は，篇や句の構成からは，①に用いられたテキストに依拠した通真子補註系と，②に用いられたテキストに依拠した潔古老人註系の2種類に大別することが出来る．⑤⑥は通真子補註系，③④⑦は潔古老人注系に属する．但し，字句の異同を精査すると，各書が別系統の版本を参考に校訂されていることが分かる．